

第**210**期 中間報告書

ユニチカ株式会社

株主通信

2019年4月1日～2019年9月30日



2019 ユニチカマスコットガール
たまだ しおり
玉田 志織

株主の皆様には、日頃よりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第210期第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から同9月30日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、外需の減速の影響を受けましたが、国内では良好な雇用環境や所得情勢に加え、設備投資や個人消費も堅調に推移し、緩やかな成長を維持しました。世界経済は、米国が引き続き底堅さを見せた一方で、中国などでは停滞が見られ、また米中貿易摩擦の更なる激化や中東情勢などの地政学リスクも払拭されず、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画「“G”round 20 ~to The Next Stage(ジールラウンド・トゥエンティ ~トゥ ザ ネクスト ステージ)」に掲げる3つの“G”(Growth、Global、Governance)の実現に努めてまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は60,486百万円(前年同四半期比4.6%減)、営業利益は2,866百万円(同35.0%減)、経常利益は2,148百万円(同49.5%減)となりました。また、当社が豊橋市から1951年に譲り受けた工場用地を第三者に売却したことは用地を譲り受けた際の契約に違反するとし、豊橋市長に損害賠償請求権を行使するよう求めた住民訴訟の控訴審判決を受け、訴訟損失引当金繰入額2,500百万円を特別損失として計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,383百万円(前年同四半期は、3,875百万円の利益)となりました。

また、2019年8月28日及び11月1日に公表いたしましたとおり、当社グループにおいて、相次いで品質管理上の不適切な事案の存在が判明いたしました。このような事案を発生させたことは、誠に遺憾であり、メーカーでありながら品質に対する認識が不十分であったことを深く反省するとともに、お客様を始め、株主・関係者の皆様に多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことを、深くお詫び申し上げます。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、引き続き中期経営計画に掲げる3つの“G”の実現に向け、事業基盤を固め、成長に向けた施策を確実に実行してまいります。

財務体質の健全化については、引き続き在庫削減等の運転資金の効率化に努め、今後も着実に自己資本の蓄積、有利子負債の削減を進めます。

ガバナンスについては、今回判明した品質管理上の問題を真摯に受け止め、再発防止のため、品質保証に関するコンプライアンス体制の強化、コンプライアンス意識の向上に関する社内啓発や教育等の取り組みを再整備してまいります。今後は、「社会に有用な財・サービスを環境・安全に十分配慮して開発・提供します」という当社グループの「ユニチカ行動憲章」に定める基本に立ち返り、信頼回復に努めます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月



代表取締役社長 上 埜 修 司

連結業績の推移

売上高



604億86百万円



(前年同四半期比4.6%減)

2019年1月に発生した宇治事業所の火災の影響によるフィルム、樹脂の販売減少などにより、売上高は604億86百万円と前年同四半期比4.6%の減少となりました。

営業利益



28億66百万円



(前年同四半期比35.0%減)

売上高の減少や宇治事業所の火災によるコストアップなどの影響により、営業利益は28億66百万円と前年同四半期比35.0%の減少となりました。

経常利益



21億48百万円



(前年同四半期比49.5%減)

営業利益段階での減益などの影響により、経常利益は21億48百万円と前年同四半期比49.5%の減少となりました。

連結業績の推移

親会社株主に帰属する当期純利益



△ **13億83**百万円

(前年同四半期は、38億75百万円の利益)

訴訟損失引当金繰入額(25億円)の計上などによる特別損失の増加や営業利益段階での減益などの影響により、親会社株主に帰属する四半期純損失は13億83百万円(前年同四半期は、38億75百万円の利益)となりました。

総資産・純資産



総資産 **1,942億78**百万円
(前期末比48億15百万円減)

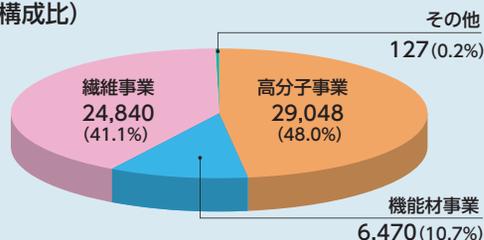
純資産 **397億67**百万円
(前期末比15億85百万円減)

総資産は、主として受取手形及び売掛金が減少したことなどにより、前期末に比べて48億15百万円減少し、1,942億78百万円となりました。また、純資産は、主として親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少などにより、前期末に比べて15億85百万円減少し、397億67百万円となりました。

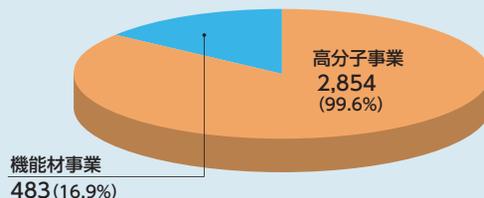
セグメント別 当第2四半期累計期間における売上高・営業利益

(単位:百万円)

売上高(構成比)



営業利益(構成比)



※セグメント別の営業利益及び構成比は調整額調整前の数値で表示しています(合計2,870百万円)。
※営業利益(構成比)の「繊維事業」「その他」は営業損失となっていますので表示していません。

セグメント別の状況

高分子事業

高分子事業は、2019年1月に発生した宇治事業所の火災によって、フィルム事業及び樹脂事業におけるナイロン製品については、生産、販売に影響がありました。

フィルム事業では、包装分野は、火災の影響により販売が減少したに加えて、梅雨明けが例年よりも遅れたことなどから一部の季節商品用途の需要が鈍化しましたが、バリアナイロンフィルム「エンブレムHG」などの高付加価値品は、国内及び海外で売上が順調に拡大しました。工業分野は、国内外ともに半導体分野の市況悪化の影響を受け販売が減少しましたが、シリコンフリー離型ポリエステルフィルム「ユニピール」、耐熱性ポリアミドフィルム「ユニアミド」などの高付加価値品は順調に売上を伸ばしました。この結果、事業全体で減収、利益は横ばいとなりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、火災の影響を受け販売が減少しました。また、ポリアリレート樹脂「Uポリマー」は、情報通信機器用途は堅調に推移しましたが、海外向け自動車用途での需要が減少し苦戦しました。その他の機能樹脂の各素材については、米



綿100%のコットンспанレース
「コットエース」

中貿易摩擦による市況悪化や、半導体市況の停滞による需要減少の影響を受け、低調でした。この結果、事業全体で減収減益となりました。

不織布事業では、ポリエステルспанボンドは、海外向けの販売は、顧客開拓も進み順調に推移しましたが、国内販売は一般的に伸び悩みました。タイ子会社のTHAI UNITIKA SPUNBOND CO.,LTD.(タスコ)は、新機台製品のスペックインは進みつつありますが、一部用途で取引先による在庫調整の影響を受け、全体としては低調でした。また、コットンспанレースは、国内需要は一時的に減少しましたが、海外向けの衛材用途は順調に販売が拡大しました。この結果、事業全体で減収減益となりました。

以上の結果、高分子事業の売上高は29,048百万円（前年同四半期比6.6%減）、営業利益は2,854百万円（同29.3%減）となりました。



ポリアリレート樹脂「Uポリマー」
使用例：自動車ランプリフレクター



バリアナイロンフィルム
「エンブレムHG」

■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 29,048百万円

営業利益

合計 2,854百万円

セグメント別の状況

機能材事業

ガラス繊維事業では、産業資材分野は、テント・防煙垂れ壁・延焼防止シート等の建築用途の販売が順調に推移し、環境関連用途の販売も回復しました。電子材料分野のICクロスは、海外向けでは超薄物や低熱膨張タイプなどの高付加価値品の販売は好調でしたが、国内では半導体市況の悪化の影響を受け、収益を押し下げました。

ガラスビーズ事業では、工業用途は自動車分野や電子部品分野の需要減少により苦戦し、反射材用途は需要が回復しましたが採算面で苦戦しました。道路用途は順調に売上が伸長しました。

活性炭繊維事業では、主力の浄水器用途は水栓一体型を中心に好調に推移し、VOC除去用途も販売が堅調でしたが、工業用フィルター用途の販売は低調でした。

以上の結果、機能材事業の売上高は6,470百万円（前年同四半期比2.9%増）、営業利益は483百万円（同22.8%減）となりました。



ガラス長繊維



ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路（白線）



高性能VOC除去シート



活性炭繊維フィルター

■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 6,470百万円

営業利益

合計 483百万円

セグメント別の状況

繊維事業

産業繊維事業では、短繊維は、生活資材用途、産業資材用途の販売が堅調に推移しましたが、輸出が低調でした。ポリエステル高強力糸は、土木建築用途で販売が堅調に推移し、複合繊維は、資材用途の需要が減少しました。

衣料繊維事業では、主力のユニフォーム分野は、ワーキング用途を中心に好調でしたが、スポーツ分野や寝装分野の販売は低調に推移し、高機能素材の原糸輸出も減少しました。また、海外向けデニム生地の販売は前年並みで推移しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は24,840百万円(前年同四半期比1.5%減)、営業損失は323百万円(前年同四半期は24百万円の損失)となりました。



幅広い用途に展開できる
多機能な特殊複重層紡績糸「パルパー」



河川の護岸のための侵食
防止シート「ゼグローバ」



建築工事中用防災メッシュシート

■繊維事業 売上高・営業損失

売上高

合計 24,840百万円

営業損失

合計 323百万円

その他

その他の事業につきましては、売上高は127百万円(前年同四半期比83.8%減)、営業損失は144百万円(前年同四半期は203百万円の損失)となりました。

■その他 売上高・営業損失

売上高

合計 127百万円

営業損失

合計 144百万円

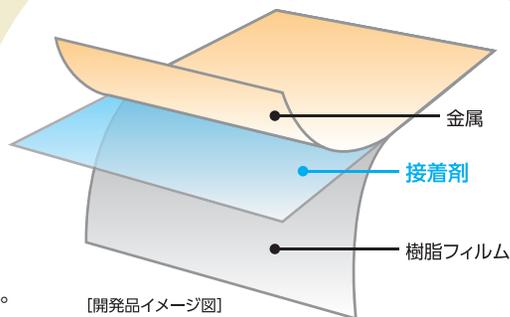
地球環境にも配慮

ポリエステル樹脂接着剤の開発 (エーテル耐腐食性グレード)

当社は、金属（銅など）と樹脂フィルム（ポリエチレンテレフタレートなど）との間で良好な接着性を示し、かつ金属の腐食による接着性の低下を防ぐことができるポリエステル樹脂接着剤（エーテル）を開発しました。本製品を用いることで、防錆処理と接着層塗工を同時に行うことができ、工程を簡略化できます。また、通常は金属の腐食を抑制するために様々なメッキ処理が施されますが、本製品はメッキ処理なしでも金属の腐食を抑制できる、地球環境にも配慮した製品です。現在、本製品を用いたフレキシブルフラットケーブルの量産化に向けた各種取組みを実施しています。今後は、電子機器材料など、接着性と耐腐食性の両方を兼ね備えた本製品の長が活きる様々な用途に向けて販売に注力し、2021年度の売上高1億円を目指します。



飽和共重合ポリエステル樹脂（エーテル）

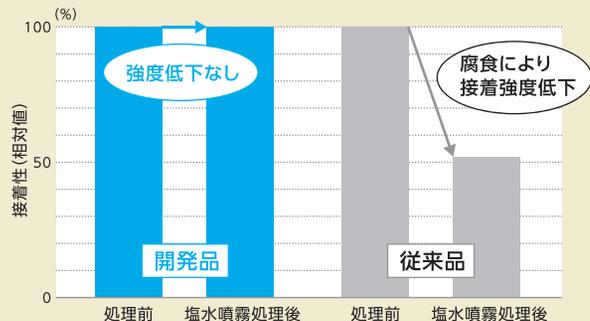


〔開発品イメージ図〕

接着剤として、さまざまな用途に展開できます



■ 耐腐食性比較テスト①



〔評価の方法〕

PETフィルムに接着剤を塗工し銅と貼り合せます。貼り合せた後、PETフィルムの上から1mm×1mmのマスキングに100個の切込みを入れて塩水を噴霧します。

■ 耐腐食性比較テスト②



〔評価の方法〕

銅箔にコーティングし被膜を形成。被膜の上から切れ込みを入れて塩水に50℃×24時間の条件で浸漬した後の外観を評価。

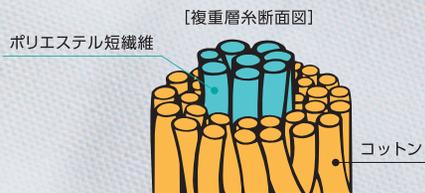
お問合せ先 ▶ ユニチカ株式会社 樹脂事業部 機能樹脂第一グループ TEL:03-3246-7610
www.unitika.co.jp/plastics/products/elitel/

「鎌倉シャツ」との共同開発・新業態に対応

「パルパー・プレミアム」増産体制へ

当社では、ユニチカテキスタイル(株)常盤工場に投資し、二重構造糸「パルパー・プレミアム」の増産体制に入りました。「パルパー・プレミアム」は、ユニチカトレーディング(株)と鎌倉シャツで知られるメーカーズシャツ鎌倉(株)が約3年を費やして共同開発しました。機能性に優れたポリエステル繊維のまわりを肌触りの良い上質なコットンで包み込んだ特殊複重層紡績糸で、防シワ性、吸水速乾性等の機能性に優れ、かつコットンの風合いを活かした次世代シャツ用素材です。メーカーズシャツ鎌倉(株)では、発売初年度の2018年度には1万5千着を販売し、2019年度は5万着の販売見込みです。また、メーカーズシャツ鎌倉(株)は、2020年初頭に形態安定シャツなどに特化した新業態の出店を計画しています。新店舗で取り扱われるトラベラーシリーズの代表商品にこの「パルパー・プレミアム」が使用されており、2020年度には10万着の販売を見込んでおります。

■ 2層構造の紡績糸「パルパー・プレミアム」



「パルパー・プレミアム」を使った
形態安定シャツ

お問い合わせ先 ▶ ユニチカトレーディング株式会社
www.unitrade.co.jp/products/textile/uniform.html

株式の状況 会社の概要

株式の状況 (2019年9月30日現在)

1. 発行済株式総数	普通株式	57,752,343株
	A種類株式	21,740株
	B種類株式	2,559株
2. 株主数	普通株式	40,799名
	A種類株式	1名
	B種類株式	2名

3. 大株主

株主名	株式数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 3,731 ^{千株}	6.46%
株式会社三菱UFJ銀行	普通株式 2,334 A種類株式 21	4.08
日本トライフサービス信託銀行株式会社(信託口)	普通株式 1,467	2.54
ユニチカ従業員持株会	普通株式 1,155	2.00
日本トライフサービス信託銀行株式会社(信託口5)	普通株式 1,147	1.98
BNVM SA/INV FOR BNVM FOR BNVM GOM CLIENT ACCOUNTS IN LSCB RD	普通株式 987	1.71
GOVERNMENT OF NORWAY	普通株式 868	1.50
JP MORGAN CHASE BANK 385151	普通株式 852	1.47
大同生命保険株式会社	普通株式 800	1.38
日本トライフサービス信託銀行株式会社(信託口1)	普通株式 785	1.36

(注1) 持株比率は自己株式(94,057株)を控除して計算しております。

(注2) 上記A種類株式(株式会社三菱UFJ銀行21,740株)のほか、B種類株式(株式会社みずほ銀行3,635株、三菱UFJ信託銀行株式会社2,124株)を2014年7月31日に発行しております。

(注3) B種類株式の一部3,200株を2019年2月28日に取得及び消却しましたので、株式会社みずほ銀行は1,615株、三菱UFJ信託銀行は944株を保有しております。

(注4) A種類株式及びB種類株式は、優先株式であり、議決権がありません。

会社の概要 (2019年9月30日現在)

社名	ユニチカ株式会社
創立	1889年(明治22年)6月19日
資本金	100,450,000円
本店	兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
大阪本社	〒541-8566 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号 電話06-6281-5722 (社長室法務グループ)
東京本社	〒103-8321 東京都中央区日本橋本石町四丁目6番7号 電話03-3246-7540 (人事総務部東京総務グループ)
研究所	中央研究所(京都府宇治市)
事業所	宇治事業所・岡崎事業所 垂井事業所・坂越事業所
海外事務所	デュッセルドルフ事務所(ドイツ) 上海事務所(中国) ニューヨーク事務所(アメリカ)
主な子会社	日本エステル(株)(愛知県岡崎市) ユニチカトレーディング(株)(大阪市) THAI UNITIKA SPUNBOND CO.,LTD.(タイ) P.T.EMBLEM ASIA(インドネシア) ユニチカテキスタイル(株)(岡山県総社市)
従業員数	連結 3,477名 単体 1,377名

取締役及び監査役

(2019年9月30日現在)

代表取締役会長	注連 浩行
代表取締役社長執行役員	上埜 修司
代表取締役専務執行役員	安岡 正晃
取締役常務執行役員	榎田 晃
社外取締役	古川 実
社外取締役	太田 道彦
監査役(常勤)	森川 光洋
監査役(常勤)	岡 和貴
社外監査役	福原 哲晃
社外監査役	丸山 澄高

執行役員 (2019年9月30日現在)

常務執行役員	細田 雅弘
上席執行役員	北野 正和
上席執行役員	久内 克秀
上席執行役員	竹歳 寛和
上席執行役員	吉村 哲也
執行役員	今村 高之
執行役員	松田 常俊
執行役員	中西 雅之
執行役員	藤井 実
執行役員	豊田 明生

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ウェブサイトに掲載）

<https://www.unitika.co.jp/ir/notice/>

ただし、事故その他やむを得ない事由に

よって電子公告による公告ができない場

合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。

株式等に関するマイナンバーのお届出のお願い

株式等の税務関係のお手続きに関しては、マイナンバーのお届出が必要です。

お届出が済んでいない株主さまは、お取引のある証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いします。

■株式関係業務におけるマイナンバーの利用

○法令に定められたとおり、支払調書に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

※主な支払調書

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

■マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

○証券口座にて株式を管理されている株主さま

お取引の証券会社にお問い合わせください。

○証券会社とのお取引がない株主さま

以下のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 フリーダイヤル 0120-094-777

